

敗北逆アナル【END2】勇者様は敗北しました。

清楚清廉だった彼女はふたなりサキユバスに堕ちて…

シーン4

「ああ♡ いいですね♡ お久しぶりです、勇者様♡ その様子ですと、限界が近いみたいですね♡ ふふふ♡ 射精禁止の呪いを掛けて、今日で一週間くらい、でしょうか？♡ さすがの勇者様でも、ねえっ♡」

「あらあら♡ 私の姿を見ただけで、♡♡震えておねだりだなんて♡ それに…♡ふふふ♡ そんなにすり寄って来たりして…♡ とても可愛らしい反応をしてくださるんですね♡」

「では、そんな勇者様には、最後の仕上げをしてさしあげますね♡」

「ああ♡ 勇者様♡ 私のおチンポ様を見て、そんなに物欲しげな目をする事が出来るようになっただんですね♡」

「♡♡でも素敵♡ ふふふ♡ 勇者様？ 射精、したいですよね？♡ ええ、ええ♡ 分かります♡」

「射精禁止の呪いですが解くことももちろん可能ですよっ♡」

「そうですね…♡ だいたい10回ほど私のおチンポ様を射精させることができれば、呪いは解けます♡」

「あと、だいたい10回というのはおおよその回数です♡ 気持ちよかつたらより少ない回数で終わりますよ♡」

「はい♡ という訳で、勇者様は射精するためにがんばってみましょう♡」

「最初は…♡…そうですね、おチンポ様にキスから始めましょうか♡ ♪♡」

「♡♡ はあ、ふふふ♡ おチンポ様の先にちゃんとキスできましたね♡ ♪♡ はあ、はあ、はあ、♡」

「勇者様のキス♡ 遠慮がなくなっていてとても素敵ですね♡ おチンポ様も喜んでいきますよ♡ はあ、ふふふ…♡」

「キスだけで終わりではなく、手でもシゴいてイキましょっか♡ おチンポ様に感謝をしながら、ゆっくりと、愛を持って♡」

「はあ、♡♡ ふふふ♡…♡ん♡♡ ああ、いいですね♡ ♪♡ ♪♡ はあっ、はあっ、はあっ、♡ん♡」

「勇者様は、♡♡やっつてシゴシゴしたら、おチンポ様が気持ちよくなるか、分かっているんですね♡ ♪♡」

「ふふふふ♡ 両手で丁寧にシゴくのが上手♡ んっ♡ はあ、ふう……勇者様は穴奴隷として、立派に成長されているようですよ♡」

「おチンポ様の感謝と♡ 快感を忘れずに……♡ んっ♡ ふふふ♡ まあ、今の勇者様の様子を见ていると、その心配もなさそうですが♡」

「はあ、はあ、はあ、んっ♡ 勇者様の感謝と快感の気持ち♡ んっ♡ 私のおチンポ様に届いていきます♡ んんっ♡」

「ああ♡ もう、このまま、出してしまいそう♡ んっ♡ はあ、はあ、はあ、んんっ♡ あら♡ ふふふふ♡」

「お口を開けて♡ おチンポ様からの施しを受け止める準備をしているのですか？♡ ふふふ♡ んっ♡」

「とても素直で素敵な勇者様♡ そんなに射精される精液が欲しいのでしたら♡ すべて、そのお口に出してあげたくなってしまいます♡」

「おねだりが、上手になりましたねえ♡ んんっ♡ はあ、はあ、はあ、んんっ♡ もう、出ます♡ 出しますよ♡ 勇者様あ♡ んんっ♡ あっ、あうっ♡ 全部、受け止めて下さい♡ 全部、飲み込んでっ！ んんんうううっー！♡♡」

「んっ♡ ああっ♡ はあっ、はあっ、はあっ、ふう……ふふふ♡ おチンポ様から射精された精液、ちゃんと受け止めて偉いですね♡」

「口の中に出された精液だけでなく、手にはばりついたものまで、美味しそうに啜っているなんて……♡」

「本当に、勇者様は私のおチンポ様が大好きになられたのですね♡ ええ、ええ♡ 快感に素直になられて、嬉しい限りですよ♡」

「ああ、でも、今の勇者様は少し気が急いでいるようですね……ふふふ♡ 今は『待て』ですよ？勇者様♡」

「私が許可していないのに、お口でおチンポ様をご奉仕しようとするのはいけません♡ 熱心なのはいいですよけどね」

「あまりがつつくのも、おチンポ様への礼儀がなっていないというもの♡ ……♡ まだ、待てですよ♡ 辛抱できそうにありませんか？ ♡ふふ♡ 大丈夫ですよ♡ 勇者様ならできます♡」

「……それに、我慢した方が、後で気持ちよくなれますもの♡ ♡ふふ♡ ああ、いいですね♡ きちんと『待て』ができています♡」

「もう、いいですよ♡ 勇者様、お好きなように、しゃぶってくださいませ♡ んっ♡ んんんっ♡」

「んんっ♡ おお♡ んんはあ♡ イイですねえ♡ 勇者様♡ んんっ♡ お口での奉仕の仕方が、格段に上手くなっていますよ♡」

「んんっ♡ このままだとすぐにおチンポ様から射精してしまいそうです♡ んんあっ♡ こんなにも、欲しがってくれるなんて♡」

「ふふふふ♡ 素敵ですなえ♡ 勇者様♡ もっともっと、しゃぶって♡ 吸い上げて♡ おチンポ様を舐め回してください♡ んあっ♡」

「はあはあ、はあはあ、んっ♡ あっ♡ ふふふふふふ♡ ああ、ホントに、イイ……♡ んっ♡ んっ♡ あっ♡ くっ♡ んっ♡ はあ、はあ、はあ、ふう、ふう……」

「ああ、そういえば勇者様♡」

「この一週間、私が何をしてたか、気になりませんか？ んっ♡ 今はおチンポ様にしゃぶりつくことに夢中ですかねっ♡」

「ふふふふ♡ 実はですね……元お仲間の女魔法使いさんと、女戦士さんのお二人を祝福してあげていました♡」

「最初の方は、二人とも激しく抵抗してはいたのですが……んっ♡ やはり、おチンポ様の前には抵抗は無意味でしたね♡」

「最後はきちんと二人とも奥の奥までおチンポ様を突っ込んであげて♡ 中にいっぱい射精して、体の中から祝福してあげましたよ♡」

「勇者様と同じようにしてあげたら、最後は二人ともおチンポ様にメロメロになってくれたんです♡ ふふふふ♡」

「……んっ？ どうかされました？ ……ああ、お二人のことが少し気になったんですか？♡ あんっ♡ あらあら♡」

「それも、一瞬で終わってしまったんですね♡ んんっ♡ ふふふ♡ おチンポ様に夢中な勇者様♡ すっごく素敵ですよお♡」

「んっ♡ はあはあ、んんっ♡ ……まあ、あのお二方なら、また会えると思います♡ あんっ♡」

「ふふふふ♡ 今の勇者様にはどうでもよみなでっすね……んんっ♡ はあはあ、んあっ♡ ああ、お口まん♡ イイ♡」

「はあ、はあっ♡ ……んっ♡ ……勇者様の舌♡ おチンポ様への愛をすっごく感じますね♡」

「……ねっつりと絡みついで♡ せーしおねだりしてくる♡ 勇者様が立派な穴奴隷になってくれる♡……」

「私も嬉しいです♡ ……あ、あ、あああ♡ そろそろ♡ ……ひっ♡♡ 射精♡ しますっ♡」

「んんっ♡ はあ、はあ、はあ、かわい穴奴隷くんにはいっばい祝福してあげます♡」

「……んあっ♡ ……んっ♡ んんんんんんっ♡ ……お口まん♡ ……お口まん♡ 精子貰えて満足ですかっ♡」

「そんな訳ないですよねっ♡ 勇者様♡♡ 次は、勇者様のアナルにちゃんとおチンポ様を入れてあげます♡」

「はあ、ふふふふ♡ ああ、そうだ♡ 勇者様が上になってみましようか♡ 下から突き上げられるの、初めてですよねっ♡」

「きつと、いつものと違うところ当たって、気持ちいいと思いますよ♡ ふふふ♡ じゃあ、上に乗ってくださいなえ♡」

「あら、上手ですね♡ はい、じゃあそのまま、ゆっくり腰を落としていってみましょう♡ ん♡ あっ♡うっ♡」

「すごいすごい♡ ん♡ おチンポ様が勇者様のケツまんこに、簡単に飲み込まれていっています♡ ん♡♡ あっ♡ ん♡♡」

「ああ♡ イイですねえ♡ 勇者様♡ すごい震えていますよ♡ それに……♡ ん♡♡ 勇者様のおちんちんも、勃起しちやつてますねえ♡」

「アナルにスポスポされると、♡ ん♡♡ 反射的に勃起しちゃうんですね♡ すごい可愛い反応で素敵ですよ♡ 勇者様♡」

「じゃあ、動いていきますねえ♡ ん♡♡ ん♡♡♡ はあっ♡ はあっ♡ あっ♡ あっ♡♡ すっごく、締まりますっ♡♡ ん♡♡♡」

「勇者様のっ、アナル♡ すっごく気持ちいい♡ 私のふっといおチンポ様♡ 全部、根本まで♡♡ 飲み込んでますっ♡♡ ん♡♡♡」

「ああ♡♡ この穴、気持ちいい♡♡ すごく締め付けられてっ♡ ん♡♡♡ おチンポ様の精液っ♡ すっごい欲しがってるの、分かるっ♡♡」

「ん♡♡♡ はあっ♡ はあっ♡この前まで♡ 一回も使われたことなかった勇者様のアナル♡」
「おチンポ様でっ♡♡ 私好みに♡ 変えちゃいましたねえ♡ ん♡♡♡ ああ♡♡ こんなにっ♡♡ 気持ちいい♡♡」

「すぐっ♡♡ イっちゃいますよっ♡♡ ん♡♡♡ ああ♡♡ アナルっ♡♡ イイ♡♡」
「せーし、出ますっ♡♡ ん♡♡♡ ん♡♡♡うっ♡♡♡ ん♡♡♡ おおっ♡♡……♡♡♡♡」

「ふーっ♡♡ ふーっ♡♡ ああ♡♡このまま、抜かずに♡ また出してあげますねえ♡ ん♡♡♡ 今度は、私が上になりますっ♡♡」

「ふっ♡♡ ん♡♡♡ 勇者様は、おチンポ様に感謝しながら♡ アナルでいっぱい締め上げてくださるっ♡♡ ん♡♡♡」

「ん♡♡♡ ああ♡♡ イイ♡♡ イイ♡♡ 勇者様の穴♡ すごい気持ちいいですよ♡ ん♡♡♡ はあはあ、ん♡♡♡」

「ああ♡♡ おチンポ様への感謝をたくさんしている証拠ですねえ♡ ん♡♡♡ それと♡♡ おチンポ様からの快感も、ですね♡」

「ん♡♡♡ ああ♡♡ 可愛いっ♡♡ 射精できないのに♡♡ 勇者様のよわよわおちんちんが、ずっとびくびくして動いてますねえ♡」

「早く出したいですねえ♡ ん♡♡♡ いっぱい、びゅーびゅーっしてっ♡♡ 気持ちよくなりたいですよ♡♡」

「おチンポ様にっ♡♡ばい射精してもらえはいいですよ♡♡ あん♡♡♡ 淫紋のハートも半分くらい溜まったでっ♡♡」

「おチンポ様、入れるだけで、こんなに気持ちいいなんてっ♡ すごいですっ♡ 勇者様っ♡ んんっ♡ ああっ♡」

「ズボズボされるの♡ 気持ちいいですよね♡ 体を震わせて♡ アナル突き上げられるの、感じてるんですよね♡」

「ふふふ♡ あんっ♡ そんな反応されたら♡ 興奮しちゃうに決まってるじゃないですか♡ んんっ♡」

「おチンポ様♡ ずっと喜びっぱなしですよ♡ んんっ♡ あっ、あうっ♡ はあはあ、んっ、んんっ♡ ああもっ♡♡♡ 出ますっ♡」

「せーし♡ 出ちゃうっ♡ 勇者様の穴にっ♡ 搾り取られちゃううううっ♡……っ♡♡♡」

「ふーっ♡ ふーっ♡ まだまだっ♡♡ このまま♡♡ イキますよっ♡♡ あうっ♡ アナル、バカになるくらゐすぼすぼしてあげますっ♡♡」

「んんっ♡ あっ、あうんっ♡ はあっ、はあっ、んっ、んんっ♡ ああ♡ ホントに、素敵い♡ んんっ♡」

「震えろばなしでっ♡♡ もう限界に見えるのに♡ んんっ♡ おチンポ様をシゴくだけは絶対に止めないんですよ♡」

「んんっ♡ 本当に、勇者様は素敵な穴奴隷ですよ♡ こんな気持ちいいの♡ 止められるわけがないですよね♡ んんっ♡」

「ああっ♡ ましたっ♡ 出ますっ♡ 出りゅっ♡ んんっ！ 精子っ♡ 全部、飲み込んでっ♡ んんんんああもっ♡♡……っ♡♡♡」

「ふーっ♡♡♡ ふーっ♡♡♡ ああ♡♡♡ まだっ♡♡♡ 止まりそうにないですっ♡♡♡ 続けてっ♡♡♡ 出しますねえっ♡」

「気持ち良すぎるケツまんこが悪いですからねっ♡♡ んんっ♡ んんっぐううううううっ♡……っ♡♡♡」

「ふーっ♡♡♡ ふーっ♡♡♡ ふーっ♡♡♡ ……♡♡♡ はあ、はあ、はあ、はあ……あぁ……っ♡♡♡」

「んんっ……んんんっ♡♡♡ ふー♡♡♡ 勇者様のおしりに最後の一滴までせーし絞り出してしまいましたね♡」

「あ、そういえばおめでたういさいますっ♡♡ 射精禁止の呪い、解けちゃいましたね♡」

「ふふふ♡ 待てが出来て偉いですよ……それ、じゃあ、イキなさい♡ イつてぶぶまに射精しよっ♡」

「アナタはもう立派な穴奴隷なんですから勇者とか♡ 今までの人間だっただけなら心とかも、ぜーん♡♡♡ 出しちゃいましよっ♡♡♡」

「ああ♡♡♡ びゅっ♡♡♡ びゅーっ♡♡♡ 白いせーし一週間分♡♡♡ 気持ちいいですか？ 気持ちいいですよね♡」

「そんな下ろけた顔で射精しちゃっ♡♡♡ ふふふ♡♡♡ 勇者様、あ、癖で呼んでしまいました♡」

「まあ、そっちのほう喜んでくれてるみたいですから♡♡ これからも勇者様と呼ばせてもらいます♡♡♡」

「ええ、勇者様にもおチンポ様の素晴らしさを分かっていただいて、私もとても嬉しいですよ♡」

「これから勇者様はおチンポ様に囲まれた、幸福な生活が待ってるんです♡」

「もう何も迷わなくていいんですよ♡ 気持ちいいことだけ考えて……♡ 穴奴隷として媚びてい

きましようね♡」